

令和5年度 学校教育自己診断 2年間比較 【教職員】

	診断内容	グラフ	肯定率	
項目1	学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。		R 4	86%
			R 5	87%
項目2	学校は、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。		R 4	75%
			R 5	84%
項目3	学校は諸活動において防災に関する取り組みや安全指導を行っている。		R 4	91%
			R 5	96%
項目4	私は、カウンセリングマインドを取り入れた幼児・児童・生徒指導を行っている。		R 4	87%
			R 5	86%
項目5	私は、幼児・児童・生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるようきめ細かい指導を行っている。		R 4	89%
			R 5	86%
項目6	学校（学部）は、いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる。		R 4	83%
			R 5	86%

令和5年度 学校教育自己診断 2年間比較 【教職員】

	診断内容	グラフ	肯定率	
項目7	学校は、教育相談体制が整備されており、幼児・児童・生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。		R 4	78%
			R 5	75%
項目8	私は、学校行事が幼児・児童・生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。		R 4	90%
			R 5	96%
項目9	私は、教育活動に必要な情報について、幼児・児童・生徒・保護者や地域への周知に努めている。		R 4	84%
			R 5	83%
項目10	私は、幼児・児童・生徒の障がい理解、自身の手話技術の向上に努めている。		R 4	94%
			R 5	97%
項目11	私は、前年度より必要な視覚支援やICT機器を活用した授業を行い、専門性を向上させることができた。		R 4	78%
			R 5	77%
項目12	私は、幼児・児童・生徒の人権を尊重し、日常の教育活動を行っている。		R 4	99%
			R 5	99%
項目13	学校には、管理職と教育活動について話ができる機会や場がある。		R 4	65%
			R 5	66%